東京大学文学部

Department of Japanese Linguistics
Faculty of Letters, The University of Tokyo

国語研究室の御案内

ごあいさつ

この度は、文学部進学ガイダンスにお越しいただき、ありがとうございました。

この冊子は、国語学専修所属の学部学生が編纂を行い、学生目線から国語研究室の紹介をしております。進学先の検討の一助となれば幸いです。

一人でも多くの学生が国語学に関心を持ち、また進学先として国語学専修課程を選んで下さることを、国語研究室員一同心よりお待ちしております。

目　次

国語学・研究室について　1
先生・演習紹介　2
授業紹介　3
時間割例　4-6
就活について　7-8
Q&A　9-10

画像
表紙：研究室から望む育徳園/和漢朗詠集写本(国語研究室所蔵)
目次：研究室内書架
裏表紙：研究室入口/研究室内演習スペース/外から見た研究室

国語学について・研究室について

国語学とは？

短く言うと、**国語**、すなわち**日本語**について考える学問です。

「日本語」と一言で言っても、その扱う領域はとても広く、授業の内容も多種多様。たとえば、2024 年度の授業内容を見てみると

▼古代語から近代語へ
▼現代日本語学入門
▼日琉諸方言のモダリティ
▼日本語音韻史
▼日本語文法研究の視点
▼翻訳語研究
▼日本語コーパス入門
▼文法論的文体研究
▼日琉諸方言の名詞類
▼漢文訓読と近代日本語の文体　　などなど。

私たちの身近にある**「日本語」に関する全ての「疑問」が、「国語学」の対象になる**のです。
日本語日本文学（国語学）では、3人の先生方がそれぞれの研究成果に基づいて授業を展開されており、またさらに他大学の先生も講師としてお招きしており、多くの先生方のもとで、幅広く「国語学」を学ぶことができます。

研究室とは？

我らが国語研究室は、法文 2 号館 3 階の角部屋にあります。歴史を感じさせる建物で、部屋には、壁をびっしりと埋め尽くすたくさんの本。学生が使えるパソコンもあって、勉強の環境は整っています。

研究室には事務補佐員さんがいらっしゃって、蔵書の配架場所を訊くと即座に教えて下さったり、その他学校生活における諸々のお手伝いをして下さったりします。

また、助教の近藤明日子さんが週に 3 日研究室にいらっしゃいます。日本語の書き言葉のコーパス（言語データベース）の構築とそれを使った近代語の語彙・文体の研究がご専門であり、教授陣の専門をカバーして下さるとともに、緊張してしまって先生方になかなか質問できなくても、私たち学生に寄り添って親切に答えて下さいます。

研究室に入るのは、最初はちょっとだけ緊張しますが、特に用がなくて「何となく来てみた」でもかまいません。早く研究室に慣れるためにも、ぜひ気軽に足を運んでみて下さい。

このように、アットホームな雰囲気とアカデミックな環境を併せ持つ国語研究室ですが、いいところはまだまだあります。例えば、学生の数は少なすぎず多すぎず、程よい人数です。仲良くなりやすいですし、また学生数に対して先生の数が多いので、卒論などについて手厚く指導を受けることが出来ます。

先生・演習紹介

現在、国語学研究室には 3 名の先生がいらっしゃいます。

肥爪周二(ひづめ しゅうじ)教授

国語研究室の主任です。音韻史および音韻研究史をご専門とされています。漢字音や梵語音も含めた総合的な日本語音韻史を研究され、通説とされていることでもその根拠を歴史的に遡って確認するということを大切にしておられます。研究を長く続けていくことが目標なのだそうで、学生にも、自分で自分の限界を決めずにあらゆることに興味を持って挑戦してほしいとのことです。ドライブがお好きで、遠くで開催される学会にも車で行かれます。全国各地の国宝・史跡を巡るという文化的なご趣味もお持ちです。

●演習『古代語彙研究』古語辞典の基本的な成り立ちを理解した上で、古語辞典の項目を執筆する立場に立って、古典日本語を分析する技術を身につけることを目指します。単に既存の古語辞典を比較・論評するということではなく、用例の収集・吟味、意味分類や漢字表記の読みの検討をする方法を学習します。

小西いずみ(こにし いずみ)准教授

日本語の方言の研究がご専門で、文法を中心に、音韻や語彙も含めた各地方言の記述的研究・言語地理学的研究をなさっています。臨地調査で得た言語事実にもとづく記述を心がけ、その言語事実が言語一般のありかたから見てどのように捉えられるかも考えようとしていらっしゃいます。方言という研究対象の性質に関わって、社会言語学や方言資料の整備・保存にも関心を広げておられます。私たち学生の質問にいつも丁寧に答えて下さるとても優しい先生です。街歩きと銭湯巡りが趣味で、以前住んでいた広島市では市内全ての銭湯に行ったそうです。

●演習『日琉諸方言の音韻・語彙・文法の研究』春学期は各地域方言も含む日本語の話し言葉について研究するための知識・技能について学び、文献講読を通して研究の手法や論文の書き方などを学びます。秋学期にはそれを生かして各自が研究課題を設定し、コーパスや授業内アンケート等を用いた調査結果を発表、参加者で議論します。

林淳子(はやし じゅんこ) 准教授

日本語文法の研究が専門です。特に疑問文やノダ文など、人と人がコミュニケーションをとる場面で発話される文に関心があり、コミュニケーションにおける文の機能と文の文法構造の関係を説明したいと考えていらっしゃいます。現代語の事実を記述する研究に加え、その事実を踏まえて過去の日本語の文法を確認する文法史の研究も行っておられます。

●演習『現代日本語文法の研究』日本で生活する私たちにとって身近な現代日本語の文法を研究する方法として、S セメスターは対照、A セメスターは多義の分析を取り上げます。セメスター前半は論文講読で方法に対する理解を深め、後半はその方法で事実を分析して発表・議論を行います。

また、国語学では他大学の先生方による講義も開講されています。

授業紹介

2024 年度、当専修課程では19 個の授業が開講されています。

単位としては、隣接分野である**国文学や言語学の講義も含めて**、卒業までに **76 単位**が必要となります。

科目名	必要単位数
国語学概論	4
言語学概論	4
国語学特殊講義	10
国文学特殊講義	2
国語学演習	12
卒業論文 or 特別演習	12
本学部又は他学部の単位	32

① 国語学概論

「国語学」という学問全体を眺め、様々な問題を幅広く紹介するのが概論。必修で、出席重視。期末試験での評価です。先生方持ち回りの講義で、S セメスター、A セメスターに 2 単位ずつ開講されます。

② 言語学概論

言語学の授業も必修になっています。水曜・木曜セットでの履修が必要です。2 年生の A セメスターから取れるので、早めの履修をおすすめします。期末試験での評価です。

③ 国語学特殊講義

「特殊講義」とは、各先生の専門分野を題材としたテーマ講義のことで、しばしば「特講」と略されます。2024 年度は、本学の先生方による「日本語音韻史」「日琉諸方言のモダリティ」「日琉諸方言の名詞類」「日本語文法研究の視点」「日本語コーパス入門」といった講義のほか、3 名の外部の先生方を招き「翻訳語研究」「文法論的文体研究」「漢文訓読と近代日本語の文体」といった講義が開かれています。

④ 国文学特殊講義

国文学の特殊講義も必修です。上代から近代まで、幅広い時代のさまざまな作品について詳しく学ぶことができます。

⑤ 国語学演習

演習は、先生の話を一方的に聞くことの多い講義とは違い、学生の発表に基づいて、出席者同士で意見を交わすものです。発表の準備はかなり大変ですが、その中で身につける調査の方法や考え方が卒論作成にも直結します。出席はもちろん、積極的な発言が求められます。なお、各セメスターで最低 1 コマは必ず履修しなければなりません。

⑥ 卒業論文 or 特別演習

4 年生になると卒論の作成がスタートします。テーマは自由。指導教員のもとで、1 月の提出に向けて、今までの学びの集大成を作り上げていきます。また先生から与えられた課題を行う「特別演習」が、卒論の代わりとして別に用意されております。

⑦ 本学部又は他学部の単位

卒業までに文学部や他学部の授業の単位が 32 単位必要となります。本郷に進むとやや専門性は増しますが、駒場時代と同じように、自分の興味・関心に応じてさまざまな講義を受けることができます。国語学と関係の深い講義は他の専修課程にもあり、たとえば言語学専修の授業で日本語を対象とすることも多く、日本史学専修ではくずし字読解の授業が開かれています。また教養学部後期課程でも国語学関連の講義が開講されており、もちろんこの単位に含めることができるので、まだ駒場にいる 2 年のうちから取り始めてもよいかもしれません。ちなみに、この単位には教職科目や教育実習も含まれるので、中高の教員免許の取得を目指す方は自然に埋まると思います。

時間割例

この時間割は、過去の開講科目を基に、テーマを決めた上で改めて履修を組んだ作例です。※2024 年度とは内容・時限が異なります

時間割表中の色がついているマスは、卒業要件において、国語学専修としての必要単位に含まれる授業です。

・S セメスター

・いろはさん(3 年)の例 古文を読むのが好きで、日本語の歴史に関心がある。

	月	火	水	木	金
1					
2			国文学特殊講義 Ⅶ 家持「歌日誌」の成立と展開 T 先生	国文学特殊講義 Ⅺ 山東京伝黄表紙・洒落本研究 S 先生	国語学特殊講義 Ⅷ 日本語方言の諸問題 K 先生
3	国語学概論 I 日本語学概論 I 先生		国語学特殊講義 I 漢文訓読の歴史 T 先生		文化資源学特殊講義 XV モノを見る、モノから考える H 先生
4	中国思想文化学特殊講義 Ⅳ 中国出土資料学講義 N 先生	国語学特殊講義 V 漢字音から見た日本語音韻史(1) H 先生	古文書学特殊講義 I 近世の古文書を読む M 先生		
5	国語学演習 I 平安時代語研究(1) T 先生	国語学演習 V 古代語彙研究(1) H 先生			
	集中講義：日本書誌学概論 書誌学入門 N 先生ほか				

日本語の歴史に関係する授業を多く取った例です。また、将来古典作品を原文で読めるようになりたいと思い、崩し字読解の授業を 2 つ（水 4 と集中）取ることにしました。

・かんなさん(3 年)の例 現代の日本語に興味がある。教員免許取得を検討中。

	月	火	水	木	金
1					
2	言語学特殊講義 Ⅸ 日本語方言の音声 I 先生				生徒指導・進路指導 O 先生
3	国語学概論 I 日本語学概論 I 先生		国文学特殊講義 Ⅵ 総合日本文学・古典教育の試み W 先生		国語学特殊講義 Ⅲ テンス・アスペクト研究 I 先生
4	国語学演習 Ⅲ 副詞研究(1) I 先生	言語の変異・変化 I 通時言語学入門 T 先生			国語科教育法 Ⅲ K 先生
5	国語学演習 I 平安時代語研究(1) T 先生		心理学特殊講義 Ⅲ 学習・言語心理学 I 先生		国文学特殊講義 Ⅻ 近代文学の原稿研究 M 先生
6		特別活動論 T 先生			
	集中講義：教育原理 T 先生				

教職科目を優先的に取る場合の一例です。火曜日は教職科目の為に駒場に行かなくてはいけないので、4 限に教養学部開講の科目も取ることにしました。空きコマにはサークルにも顔を出しています。木曜日は比較的授業が少ないので、全休を作っています。お勧めは月 4 の演習です。まず一見似た意味の副詞について先行研究と用例を集め、「データ収集・分析＝研究手法の基礎」を学びます。そして授業中は発表をもとに隠れた使い分けや意味を探り、議論が白熱することも。用例をにらみながら直感を言語化していくのはたいへんですが、ハマる人もきっといるはず……！

・A セメスター

・まなさん(3 年)の例 日本語をはじめとして、ことば全般に興味があり、新たな言語を学ぶのが好き。

	月	火	水	木	金
1				比較言語学Ⅱ K 先生	
2	国語学特殊講義Ⅸ 平安鎌倉時代の語彙と文体 Y 先生	韓国朝鮮文化演習Ⅱ 現代韓国語の音声研究入門 F 先生			韓国朝鮮語中級 I 先生
3	国語学概論Ⅱ 古代語から近代語へ H 先生		音声学Ⅱ U 先生		国語学特殊講義Ⅳ モダリティ研究 I 先生
4	国語学演習Ⅳ 副詞研究(2) I 先生	国文学特殊講義Ⅱ 太宰治と近代文学史 A 先生			
5		国語学演習Ⅵ 古代語彙研究(2) H 先生	日本手話Ⅱ I 先生ほか		言語学特殊講義Ⅺ アイヌ語 B 先生
	集中講義：国語学特殊講義Ⅹ 発話の文法 S 先生				

いろんな言語を学ぶことで、日本語を相対的に捉えられる視点を持ちたい、と考える人の例です。様々な言語を学べるのは、文学部の強みの一つでもあります。

お勧めは火 5 の演習です。ある言葉の用例数がどれだけあるのかを作品ごとに示した『古典対照語い表』という本から、調べてみたい言葉を選び、実際に用例を集めて分析して、意味分類を考えるというもので、選んだ語によってはかなり根気のいる作業をしなければならないのですが、用例採取をするなかで「こんな言葉も目的語に取れるんだ！」とか、「こんな場面で使われるんだ！」とかさまざまな発見があって、調べ切った後は、高校のときの古文単語の丸暗記ではたどり着けないような深いレベルでの理解が得られます。発表中に、思いもよらなかった観点から質問が出ることもあって、月並みながら「ことばの奥深さ」というものを実感させられます。

・ロさん(3 年)の例 留学生で日本語学、理論言語学とコンピューターによる日本語処理に興味がある。

	月	火	水	木	金
1					
2	国語学特殊講義Ⅷ 日本語コーパス研究 K 先生	国語学特殊講義Ⅱ 日本語方言の文法と韻律(2) K 先生	基礎言語理論 K 先生		言語の認知科学Ⅲ O 先生
3	アルゴリズムとデータ構造 I 先生	統計と最適化 S 先生	数理手法 K 先生		情報数学 Y 先生
4	国語学演習Ⅳ 古代語彙研究 H 先生	国語学演習Ⅱ 話し言葉の語彙・文法研究(2) K 先生			形式言語理論 M 先生
5	データマイニング概論 M 先生				言語科学への招待 リレー講義

「日本語を軸として、いろんな分野の勉強をしたい！日本語を学際的な視点から見たい！」という人の一例です。統計学やデータ処理関係の授業を多く取り、そこで学んだ方法論を日本語分析に応用してみたいと考えています。

おすすめの授業は火 4 の国語学演習です。方言を一つ選んで、音声を聞きながらその特徴を分析するという演習です。今まで学んできた外国人教育向けの規範的な共通語との比較で、日本語を再認識できました。文の読み方や辞書の調べ方も学べて、今後の研究に有意義な授業だと思います！

・ **4 年次の時間割について**

4 年生の時間割および生活ペースの核は、何と言っても卒業論文・特別演習です。4 年生の S セメスターの初めに指導教員を選び、その先生と頻繁に綿密に相談しながら、じっくりと取り組みます。人それぞれではあるものの、10 コマ以上取る 3 年次に比べて、コマ数は半分強、といった場合が多いようです。

一文で表せば「自由度の増した時間割で、卒論・特別演習に加え、資格試験や院試の勉強・就活・教育実習・息抜きなど、各人のやりたいことを上手くこなしていく生活」というふうになるでしょうか。とはいえ、言うは易く、行うは難し。悩んだ時は迷わず周りを頼り、助け合って下さい。

先生方との相談は勿論、同じ道を通ったかもしれない先輩に訊くもよし、同期と話すもよし。何となく研究室に来て、肩の荷が軽くなることもあるかもしれません。大変な 4 年次も一人でなければグッと歩みやすくなる、筈です。

就活に向けて

就職活動の流れ　※説明会、面接解禁日は年や業界によって異なります。例は 20 年卒のもの

～卒業前年度～　　～卒業年度～

六　七　八　九　十　十一　十二　一　二　三　四　五　六　七　八　九　十　十一（月）

☆夏インターンエントリー　　☆就活解禁[1]　　☆内定式

■■夏 IS[2]■■　■■秋 IS■■　■■■冬 IS■■■　■■エントリー[3]■■

■■■■■■■■■企業説明会[4](IS 向け)■■■■■■■■■　■■説明会・セミナー■■

■■■■■■■■■■■■■■自己分析[5]・業界[6]研究■■■■■■■■■■■■■■■　■■ES[7]提出■■

■■■■■■■■■■OB・OG 訪問[8]■■■■■■■■■■　■■■■入社試験[9]・面接[10]■■■■

■■■■■■■内々定[11]■■■■■■■

[1] 就活解禁：経団連が定める就活に関する情報解禁・選考開始の期日です。ただし上の図を見れば分かる通り、就活は実際これより前から始まっておりこのいわゆる「就活ルール」は有名無実化しています。2024 年現在（2025 年卒の就活）においては、まだ従来のスケジュール（3 月 1 日解禁）が残っている状態ですが、これから撤廃される可能性もあるため注意して情報を集める必要があります。

[2] IS：インターンシップの略称です。1～5 日の短期のものから数ヶ月の中・長期のものなど様々です。夏・秋・冬などのインターンは短期が主流で、企業説明+グループワークという形が多くなっています。説明会だけでは分からない会社の雰囲気や仕事内容について知る機会として重要です。3 月以降の本選考でもインターン生が優遇されることが多く、遅くとも冬インターンの時期には就活を始めるのがオススメです。

[3] エントリー：主にマイナビ等の就職サイトを通して、企業に選考参加の意志を示すことです。IS・本選考ともにエントリーという語を使いますが、区別のために本選考では本エントリーと呼ばれることもあります。

[4] 企業説明会：企業による自社の説明会であり、合同で行われることも多くなっています。特に合同説明会（いわゆる合説）は、初めてその会社を知る機会としてはとても有用です。もっと深くその企業を知りたい、という人向けには少人数のセミナーや座談会などを開く企業も多いです。

[5] 自己分析：業界・企業研究同様、就活において欠かせない要素です。自分は何がしたいのか、どうなりたいのか、何を大切にするのか、それらに向き合わないと自分が行きたい会社も定まりづらいです。面接で想定外の質問をされても、自己分析をしっかりしていればその場で自信をもって答えることができます。自己分析を補助するツールなども流布していますが、手段はどうあれ自分のことを見つめ直すことが就活においての第一歩かつやり続けねばならないことになります。

[6] 業界：金融・商社・コンサル・不動産・メディア・メーカー・官公庁など、取り扱う商品やサービスごとに企業をまとめた括りのことです。ある程度これを絞った上で就活を進めることが一般的です。

[7] ES：エントリーシートの略称、履歴書のようなものです。自己 PR（学生時代に力を入れたこと、いわゆる「ガクチカ」など）や志望動機などを記入しますが、近年は電子化の傾向があります。業界によって扱われ方は様々で、新聞社や出版社ではこれに加えてしばしば作文を課され重視されることも多い（手書きのことも）一方、あくまで ES は面接の材料に過ぎず合否判断は面接で、という企業・業界もあります。

[8] OB・OG 訪問：特定の業界や企業で働いている卒業生（大学・学部・研究室・部活など色々な括りで）を訪ねて、仕事内容などについて質問をすることです。業界研究の一形態であり、個人的な人脈の他、キャリアサポートセンターの名簿を利用することで志望の訪問先を探すことができます。これといって特定の時期にやるというものでもないですが、実際に一社員に会い会社の雰囲気を感じ取る機会になります。

[9] 入社試験：計算や文章読解などの学力試験やビジネス上を想定したケースワークなどが選考過程で課されます。一般に ES 提出と同タイミングのことが多いです。

[10] 面接：面接官と一対一に限らず集団面接、GD（グループディスカッション）など形式は様々です。

[11] 内々定：事実上の内定ですが、就活ルール上 10 月頭の内定式までは正式に「内定」を出すことができないのでこのように呼ばれます。

先輩からのアドバイス

○ 就活は皆さんの想像以上に膨大な情報で溢れています。時に友人などに頼り助け合うことが大切です。情報共有の観点だけでなく、就活生同士でしか理解し合えない悩みも多いので周囲の人との関わりが非常に重要になるのが受験勉強との大きな違いです。個人戦が得意という人も、ぜひ試しに色々な人に頼ってみてはいかがでしょうか。

○ 企業を知っていく過程として、初めは合説や業界研究、次に企業主催のセミナーや社員との座談会、もっと深く知りたいときに OB・OG 訪問やインターンという捉え方で。企業を知るということは、面接などでも受け答えできる幅を広げることに繋がり、欠かせないステップです。

○ まず自分で自分のことを理解しようとしなければ、面接官にも自分がどういう人間か分かってもらえず通用しないことがほとんど。色々な社員と会ってみると魅力的な人に会うことも多い。こういう人になりたい！というイメージから逆算するのもいいので、色んな観点から自己分析を怠らないのが大事。

○ 外資系やベンチャーなどは選考開始が早い（就活ルールに縛られないから）ので、ここで面接や GD に慣れておくと本命で緊張せず受け答えすることができます。

○ 国語研究室、文学部からはマスコミ・商社・銀行・コンサル・出版社・電機メーカー・IT・公務員など卒業生の進路は多岐にわたります。選択肢の幅が広過ぎて大変な上に、経済・法学部と比べると情報力では劣るので、積極的に色々な人と関わって情報を得ていくことが大切です。

○ 変に自分を取り繕っても面接官にはバレるものだし、自分に不向きな会社に入ることが幸せとは言えません。不安もあるかもしれませんが、飾らない自分らしさを認めてくれる会社がきっとあるはずなので、焦らず合う企業を探してみましょう。良い企業＝合う企業、というイメージで。内定はご縁です。

○ 大学で勉強していることは非常に頻繁に聞かれます。相手に伝わりやすく惹きつけやすい説明の仕方を用意しておくと何かと助かります。日本語の話、となると食いつきのいい人が結構多い印象です。

研究室主催の主なイベント（※いずれも任意参加）

OB・OG 交流会

秋から冬頃に、研究室の OB・OG を招いて交流会を行っています。就活相談を含め、先輩方と交流できる貴重な機会となります。

国語研究室会

毎年 7 月に本郷で開催される、国語研究室内部向けの研究発表会です。当研究室の教員、大学院生または卒業生の方々が国語学の研究成果を発表する会で、学部生も出席して聞くことが可能です。学部生のうちから学会の雰囲気を味わうことのできるよい機会となっています。2023 年度は「近世における漢語の語形変化」「日中対照の観点から見る価値判断のモダリティと真偽判断のモダリティの交渉」という発表がありました。

国語研究室　Q&A　～進学前編～

Q 国語学と国文学の違いは？

A 国語学は「日本語」を研究する分野で、国文学は「日本語の作品」を研究する分野です。

国語学専修と国文学専修は研究室同士の地理的な近さと文字列的な近さから混同されがちですが、当然研究分野は異なります。『源氏物語』を例にとると、国文学では『源氏物語』自体を研究対象として、成立論（作品の成立過程）、人物論（登場人物の作中の役割）、文化論（当時の歴史文化を通した作品理解）などの観点から研究をします。それに対して、国語学では『源氏物語』の文章を対象として文法論（文法を対象とする研究）、文体論（文章や表現の類型化）などの観点から研究をしますが、国語学では一作品だけではなく同時代の複数の作品を対象とすることも多く、語誌（歴史的な変化の記述）のような観点からの研究もあります。また、国語学は「文章」を対象とした研究だけでなく、音韻論（言語音の機能や体系の研究）のような観点からの研究もあります。

Q 国語学と言語学の違いは？

A 国語学は日本語（古典語・現代語）に特化した研究をする分野です。

言語学専修では世界中の主要な言語はもちろん、地理的・時代的にありとあらゆる言語を科学的研究対象とするため、当然日本語も研究対象となります。国語学専修の強みとしては、「日本語」を専門とする先生方が 3 人もいらっしゃるため、より専門的に日本語を研究できる点や、日本語に関する研究書や貴重書（古写本など）を多数所蔵している点が挙げられます。また、文献を重視した研究や、古典語はもちろん、現代語であっても歴史的背景をふまえる研究は国語学の特徴であるといえるでしょう。

Q 現代語の研究もできるの？

A もちろん、現代語の研究もできます。

現代の国語学は現代語に関する研究と古典語に関する研究とに等しく目を向けています。現代語研究では、データの分析や理論的な研究を行います。2024 年度の講義では林先生の「日本語文法研究の視点」が開講されます。また、現代標準語はもちろんのこと、方言も研究対象となります。2024 年度の講義では小西先生の「日琉諸方言のモダリティ」「日琉諸方言の名詞類」があります。

Q 古文を読めないといけないの？

A 古文単語等を暗記する必要はありません。

古文や漢文を調査する際にはそれらを読む必要がありますが、注釈書や古語辞典を用いて精読するため、大学入試の古典に求められるような能力が求められることはあまりありません。ただし、大学院に進学を希望する場合は、大学院入試において古文の現代語訳などの能力を求められます。

Q 駒場生の内に受講したほうが良い講義ってあるの？

A 「持ち出し専門科目」を履修すると、学部後期の単位として計算されます。

多くの専修で学部 2 年生を対象に「持ち出し専門科目」が開講されますが、国語学専修も例外ではありません。2024 年度は本郷で国語学概論 1 コマが各セメスターで、国語学特殊講義 4 コマが A セメスターで開講されており、これらが国語学専修の「持ち出し専門科目」となっています。また、必修科目の「言語学概論」（言語学専修の持ち出し専門科目）は A セメスターのみの開講となっているため、早めに受講することをおすすめします。

国語研究室 Q&A ～進学後編～

Q 卒論を書かなければ卒業できないの？

A 卒業論文ではなく、特別演習を選ぶこともできます。

特別演習を選ぶ場合は、古写本や古版本の翻刻や、英語で書かれた研究書の翻訳などを 2 点提出する必要があります。卒論を選ぶ場合は、3 年生の演習などを通して、テーマを考えておくといいでしょう。先生方が熱心に相談にのって下さいます。ただし、大学院進学又は教員志望の場合、基本的に卒論が求められるので、注意する必要があります。

Q 学部を卒業した後の進路は？

A 主に民間企業、大学院、公務員、中高の教員などが考えられます。

民間就職では、出版社や広告会社など専門を生かした職に就く方も多いですが、システム系や大手銀行、商社などに就職する方もいます。また、大学院（修士課程）を修了した後の進路としては、もちろん博士課程に進学して研究者を目指す方もいますが、民間企業や公務員、中高の教員という道に進む方も多くいます。

Q 文学部は民間就職で不利って本当？

A 就職の結果は不利にはなりません。

文学部の就職では本人次第で業種・職種ほとんど関係なく就職できます。しかし、文学部の上下の繋がりは他学部ほど密でなく、また、文学部生は多種多様な就活を行うため、その過程で協力を得難く、就職の過程がやや厳しいものとなることがあります。そのため、国語研究室では「OB・OG 交流会」という卒業生との交流会が開催されており、社会人や就活の実態を伺う機会を設けています。

Q 大学院への進学者数は？

A 毎年数名が院に進んでいます。

大学院は、国語学専修と国文学専修が、日本語日本文学専門分野という一つの組織を構成しています。大学院への進学を考えている場合は、院生や先生方にあらかじめ相談してみるとよいでしょう。

Q 大学院って学部とどう違うの？

A 学部に比べて拘束される時間は減ります。その分、自主的に研究を進める必要があります。

学部時代よりも必要な単位数は少ないので、「授業」という形で拘束される時間は減ります。しかし、当然研究の質と量を上げていかなければならず、また、自分自身でしっかりと計画を立てて研究を進めていくことが求められます。

Q 中高の国語教員に興味があるんですが……

A 中学と高校両方の免許を取得しておくのが理想的です。

国語科目と教職科目の単位がそれぞれ必要で、国語研究室では前者を必修単位に、後者を他学部の単位に含めることができるので、それほど大変ではありません。ただし、教職科目は量が多く、教育実習等は負担も大きいので、計画的に履修していく必要があります。また、教職科目には駒場開講の講義も多いので、駒場生の時から少しずつ履修しておくことをおすすめします。研究室に来る国語科教員の求人は中高一貫校からのものが多いので、中学と高校両方の免許を取得しておくことが理想的です。

ようこそ、国語研究室へ

国語研究室は、法文二号館の研究室棟三階の南東隅にあります。入口の扉には休講や課題などを通知する張り紙が掲示され、掲示板のような役割を果たしています。扉を開けて室内へと入ると、壁際には所狭しと本棚が並び、国語学の領域内のあらゆる分野の研究書や、古典作品の全集などの図書が揃っています。その蔵書数は膨大で、一部未整理の図書・資料等は床やソファの上に積み重ねられています。

研究室の窓からは総合図書館や育徳園を望むことができ、四季のうつろいを感じられます。研究室の最奥部の空間には大机が置かれていて、一部のゼミ形式の授業がここで行われるほか、授業時間外は研究室所属の学生が自由に自習するスペースとなっています。

国語研究室を訪れるのは基本的に研究室所属の学生ですが、国語研究室の蔵書を閲覧するときや、期末レポートの提出時などは、他専修の学生も国語研究室を訪れることとなります。

東京大学文学部 国語研究室

文学部人文学科日本語日本文学(国語学)専修課程

大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野

〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3番1号 法文2号館3F 2315号室　Tel: 03-5841-3813 / Fax: 03-5841-8956 / Mail: kokugo@l.u-tokyo.ac.jp